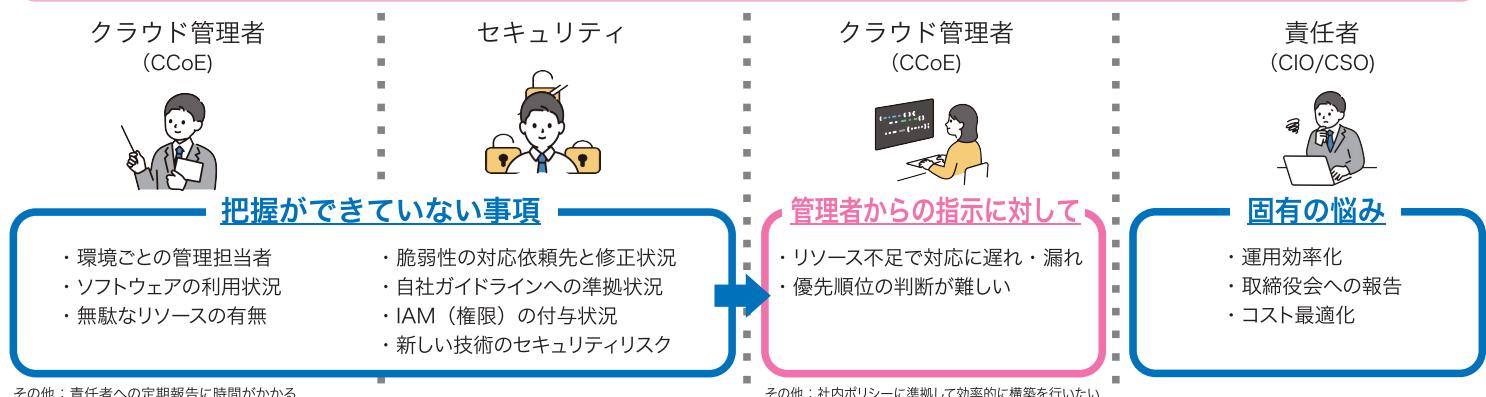


パブリッククラウドで構築・実行するすべてを保護 クラウドネイティブアプリケーション保護プラットフォーム (CNAPP)



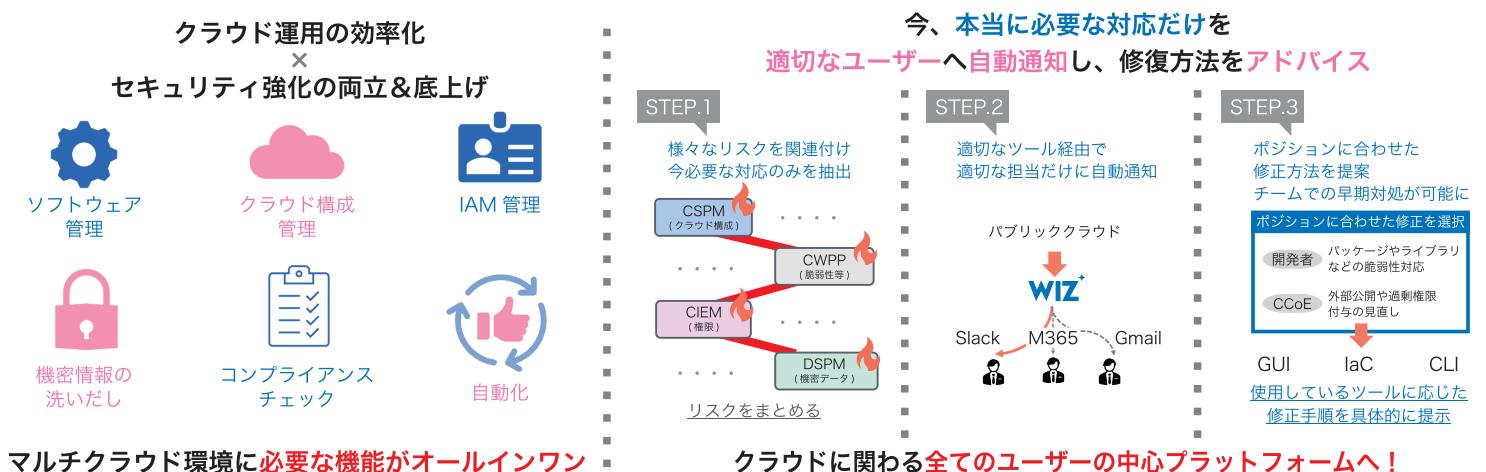
パブリッククラウドを運用する関係者様のよくある悩み



WIZ⁺がパブリッククラウドのリソースとリスクを可視化し、次世代の運用を実現



WIZ⁺が選ばれる理由



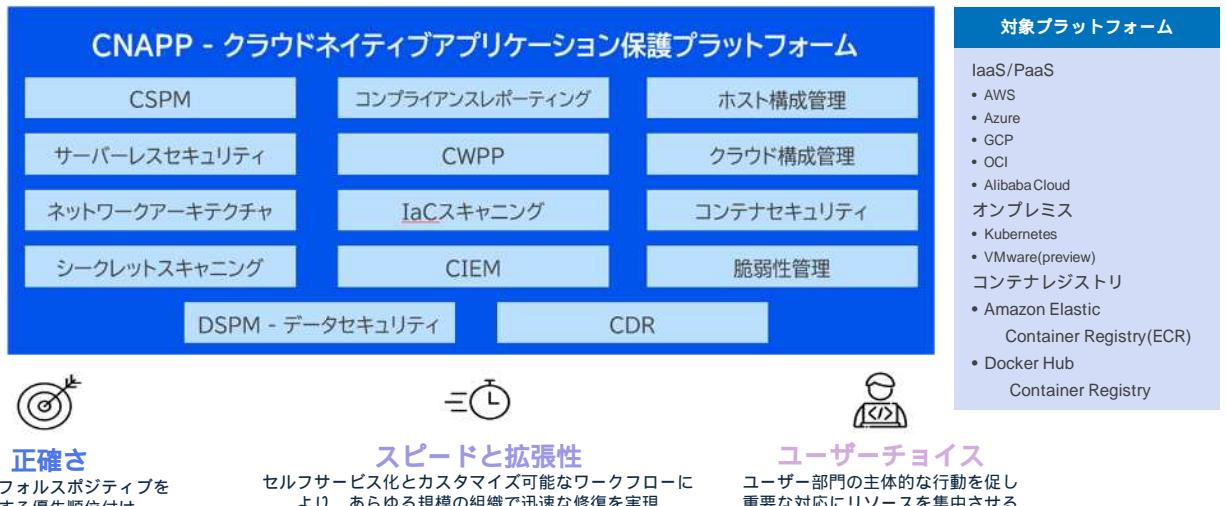
マルチクラウド環境に必要な機能がオールインワン

クラウドに関わる全てのユーザーの中心プラットフォームへ！

東京エレクトロンデバイスが選ばれる理由

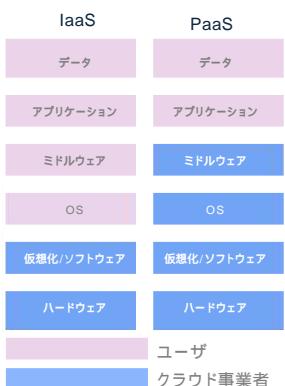


WizのCNAPPとは

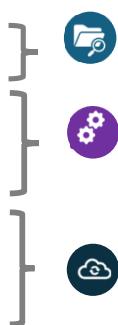


CSPMはCNAPPの機能の一部/ツールを個別で導入することによる弊害例

パブリッククラウドの 責任共有モデル



管理ソリューション名



管理ソリューション名
DSPM Data Security Posture Management ・データセキュリティ体制管理 ・機密データを保護 など
CWPP Cloud Workload Protection Platform ・ミドルウェアの可視化 ・バージョン/EOL管理 ・脆弱性管理など
CSPM Cloud Security Posture Management ・IaaS/PaaSのリソース状況管理 ・設定ミスの検知 ・ポリシーチェック など

それぞれのソリューションを 個別で実装することによる弊害例



構築運用担当

- ・ツールの数だけ個別に導入・運用が必要
- ・一貫性のないポリシーをツール個別に管理
- ・ツール毎に発生する大量のアラート
- ・コンテキストの欠如により優先度が不明確
- ・学習コストがツールの数だけ増加



管理者

- ・環境を横断した可視性がなく管理が困難
- ・ツールごと何度も利用・運用者と連携が煩雑
- ・高度化する新たな脅威への継続対応
- ・ツールごとバラバラなサポート窓口による混乱

CNAPPは高機能。Wizは誰でも使いやすいよう設計されています。

CNAPPは機能が豊富なため、使いこなすのが大変

- ・設定と構成の複雑さ
 - ・CNAPPは多機能であるため、初期設定や構成が非常に複雑
 - ・アラートが機能ごとに発生し、アラートの嵐に陥る
 - ・管理画面（UI）が細かく、どこに何の機能があるかわかりづらい
- ・役割分担
 - ・多機能であることから、社内の役割分担の定義に時間がかかり結果、導入するだけで使いきれないケースが多い



本紙に記載された会社名、ロゴ、ブランド名、製品名、サービス名は各社の商標または登録商標です。

その他全ての商標および登録商標はそれぞれの所有者に帰属します。

Wiz

CNAPPのベースとなる機能

Check

確認/可視化

Detection

検知



が得意なポイント

- ・複数リスクを踏まえたコンテキスト化による、アラートの集約
- ・稼働中の環境に対する初期導入が簡単
- ・修正手順の提案・既存の運用Stepを大幅省略
- ・ツールUI上で、お客様契約中のチケットサービスへ直接起票



東京エレクトロン デバイス株式会社

CN BU

<https://cn.teldevice.co.jp/>

本社：〒150-6234 東京都渋谷区桜丘町1番1号
渋谷サクラステージ SHIBUYAタワー35階

大阪：〒530-0001
大阪市北区梅田3-2-123イノゲート大阪17階

名古屋：〒451-0045 愛知県名古屋市西区名駅2-27-8
名古屋プライムセントラルタワー8階